

別紙1

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人 善通寺市社会福祉協議会

目 次

I	事業報告概況	1
II	各部門事業報告		
	1 法人運営部門		
	1-1 組織運営	2
	1-2 財務運営	3
	1-3 社会福祉センターの管理運営	5
	2 地域福祉事業部門		
	2-1 地域共生社会の実現に向けた市社協、 地区社協の活動強化	6
	2-2 地域福祉活動支援事業の推進	8
	3 ボランティア活動部門	14
	4 相談支援事業部門	15
	5 善通寺市地域支え合いセンターここ家事業部門	20
	6 在宅福祉事業部門		
	6-1 ホームヘルプサービス	22
	6-2 居宅介護支援事業	23
	6-3 通所サービス事業	23
	6-4 通所型一般介護予防事業	23
	7 共同募金運動への協力	24
	【参考資料】		
	別表1 善通寺市社会福祉協議会職員数の推移	26
	別表2 令和4年度会員会費の状況	27
	別表3 令和4年度地区社協活動状況	28
	別表4 善通寺市地域支え合いセンターここ家利用状況等一覧表	36

事業報告概況

令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、民生委員・児童委員をはじめ、地区社協関係者のご協力により、見守りや声かけなど「つながり」を絶やさないための活動を推進するとともに、コロナ禍における新たな地域福祉活動のあり方を模索しながら活動を推進する年度となった。また、地域共生社会の実現に向け、住民主体の地域福祉活動の推進を目指して「第4次地区地域福祉活動計画」の推進の支援を行うとともに、コミュニティソーシャルワーカー業務や生活困窮者自立支援事業、生活福祉資金貸付事業コロナ特例貸付等を実施し、生活の困りごとを抱える方々やコロナ禍において収入減となった世帯への相談支援を関係機関、地域関係者との連携により行った。

そして、地域福祉を推進する中核的な団体として、様々な地域生活課題や変化する社会情勢に対応し、組織運営と事業活動の強化を図るため、今後3年間の経営ビジョンを明確にし、具体的な取り組みを示した市社協強化発展計画を策定した。

1 法人運営関係

- (1) 市社協強化発展計画に係ごとのチームリーダーを中心に職員育成も兼ね、現状の把握、共有、課題の分析を行い、今後3か年の地域支援、相談支援、組織運営のあり方についての方向性を明確にするため策定した。
- (2) 地域福祉活動の重要な財源である会費及び共同募金運動については、コロナ禍においても自治会長、民生委員、地区社協役員等の協力により推進することが出来た。
- (3) コミュニティソーシャルワーク機能の強化として、システムを用い、地域の課題や相談・対応状況を可視化した。
- (4) 令和5年2月から善通寺市総合会館が ZEN キューブとして全面リニューアルオープンしたことに伴い、社会福祉センターの機能等を見直すとともに、改修工事等を行い、相談室を設置するなど、より利用しやすい施設整備を図った。

2 地域福祉関係

- (1) 善通寺市委託事業のコミュニティソーシャルワーカー業務については、地区社協関係者や民生委員に地域の困りごとは社協に相談していただくことを広報周知し、寄せられた相談について関係機関と連携し対応した。また、記録管理システムを活用し、相談支援内容の把握、分析を行った。
- (2) 地区社協関係者等地域住民の主体による「第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画」の推進を支援するとともに、地域共生社会の実現に向けた取組として、地区社協モデル事業を検討し地区社協会長連絡協議会において協議し、東部地区社協では居場所づくりとして「ミニここ家」を試行的に実施していただいた。
- (3) 見守り活動ネットワーク事業やふれあい・いきいきサロンについては、コロナ禍においても見守りや安否確認を継続していただき、各地区で見守り活動推進員と民生委員の連絡会や研修会、サロン代表者会を実施した。高齢者等外出支援事業については、社会参加型の運行を再開し、生活支援型の運行及び拡充検討はコロナ禍における利用者や関係者の不安もあり、実施できなかった。
- (4) ひきこもりの方の家族の居場所づくりとして「家族の会」や生活のしづらさを抱える方の居場所づくりとして「ここめし」「ここめし女子会」を地域関係者のご協力を得ながら定期的に実施し、安心して過ごせる場、また、地域関係者や専門職とつながりを持てる場を提供し伴走型支援を行った。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業となった生活資金が必要な方の支援を生活福祉資金貸付事業コロナ特例貸付と生活困窮者自立相談支援事業の連携により対応し、令和5年1月から開始されたコロナ特例貸付の償還と償還免除申請手続きの支援を行った。

3 在宅福祉関係

- (1) 虐待等防止委員会を設置し適切な事業所運営を進めていくために、虐待の防止、身体拘束等防止に向けた取り組みを行った。
- (2) 月1回の業務改善会議において経営上の課題解決や感染症及び虐待等防止対策の徹底について協議し、効果的な運営に努めた。
- (3) 国の処遇改善支援金の活用により、介護職員の人材確保に努めた。
- (4) 市委託事業訪問サービス事業は同様の訪問生活支援事業があること及び従事する職員の確保が難しいことから、令和5年3月31日に事業を廃止した。

1 法人運営部門

1-1 組織運営

目標

経営組織の充実強化を図る。

- ① 経営組織のガバナンスの強化
- ② 事業運営の透明性の強化
- ③ 財務規律の強化

事業実績

- 1 理事会 6回
- 2 評議員会 3回
- 3 監査 1回（会計業務指導1回）
- 4 評議員選任・解任委員会 3回
- 5 定例運営会議 12回
- 6 在宅業務改善会議 10回
- 7 在宅福祉係定例会 7回
- 8 社協強化発展計画（3か年）策定事業

6月開催理事会において承認を得、今後3か年における善通寺市社会福祉協議会強化発展計画（令和5年度～令和7年度）を下記のとおり策定した。

- ① 係ごとの検討チームリーダーを中心に、現状の把握、共有、課題の分析、経営戦略、実施項目等を作成した。
 - ② 外部アドバイザーによる職員全員研修及びチームリーダー研修を実施した。
 - ③ 策定の過程を通して、職員の育成を図った。
- 9 「ニーズ対応型社協アクションプラン」（香川県社協、県内市町社協連絡協議会策定）の実施に基づく活動の推進と社協組織の機能強化
- ① コミュニティソーシャルワーク（CSW）機能の強化
地域の課題や相談・対応状況等をシステムを用い、可視化した。
 - ② ICTを活用した事務事業の効率化
社会福祉センター貸館、業務予定等について、紙媒体でなく、LinkStationを活用し、誰もが自分のPCからアクセスできるようデータでの更新を行った。
 - ③ 職員が一体的に業務を推進できるような機構改革の検討、職員の意識改革を目指した人材養成研修の推進（強化発展計画（3か年））
 - ア 市社協強化発展計画の策定を通し、組織が一体となりコミュニティソーシャルワークの機能を果たしていけるように職員研修を実施し、相談支援と地域支援をより強化するため組織体制について検討した。
 - イ 災害ボランティアセンターの広域連携に向けた検討
香川県社協との災害時支援協定を見直した。
 - ウ 職員マネジメント研修の実施
年間4回実施し、日頃の業務推進における課題、組織の方向性等についての協議を行った。
- 10 災害時・感染症のBCP（事業継続計画）、職員初動参集マニュアルの点検
介護保険事業等におけるBCPの作成のために、香川県社協からアドバイザーを派遣してもらい、作成を進めたが、職員の異動等により職員相互の擦り合わせ等が難しく、次年度に持ち越した。

評価と課題

- 1 定款その他の規程に従い、適正な組織運営に努めた。

- 2 社会福祉法人充実残額は発生しなかった。
- 3 各系の業務を共有化し、法人内の事務事業の課題解決、業務改善連絡調整を行い、組織運営の充実強化を図ることができた。
- 4 善通寺市社会福祉協議会強化発展計画策定の過程を通して、職員の育成を図ることができた。
- 5 災害における感染症に対応したBCP及び職員初動参集マニュアルについては、研修会を実施する予定であったが、コロナ禍によりできなかった。

1-2 財務運営

1 自主財源の増強

目標

地域における住民相互の助け合いのための、地域福祉財源としての自主財源を確保する。

事業実績

① 会費収入 6,813,500円（3年度 6,945,500円）

会費状況表（別表2 27P）

② 寄附金収入

（単位：円）

種別	令和4年度		令和3年度	
	金額	件数	金額	件数
社会福祉事業積立寄附	975,815	22	1,282,801	20
歳末協賛事業寄附	800,000	1	800,000	1
障害者福祉事業寄附	44,725	1	-	-
生きがいひろば事業寄附	203,960	-	138,970	-
寄付物品（備品）	0	-	129,219	1
合計	2,024,500	24	2,350,990	22

③ 事業収入

（単位：円）

事業名	令和4年度金額	令和3年度金額
車椅子貸出事業	123,000	134,000
広報紙広告事業	95,000	120,000
健康増進事業	20,386	172,630
総合会館貸館事業	0	617,527
福祉サービス利用援助事業	573,000	447,000
法人後見事業	180,000	180,000
社会福祉センター貸館事業	189,500	204,808
訪問サービス事業	115,650	120,300
通所サービス事業	454,500	424,800
生きがいひろば事業	194,000	108,000
介護保険対象外サービス事業	15,750	27,000
生活福祉資金貸付事業	62,000	58,000
ここめし	24,400	2,200
ここ寄席	9,200	0
合計	2,056,386	2,616,265

④ 積立金の効果的運用（運用状況）

（単位：円）

積立金等名称	前年度末現在高	本年度取崩額	本年度積立額	本年度末現在高	利息
基本財産	1,000,000	0	0	1,000,000	20
振興財団退職給付引当資産	5,657,804	1,047,690	649,794	5,259,908	0
退職給付引当資産	11,695,594	0	0	11,695,594	5,000
社会福祉事業積立資産	50,295,758	3,000,000	975,815	48,271,573	8,398
障害者福祉事業積立資産	19,600,648	0	0	19,600,648	9,473
地域福祉事業積立資産	14,401,383	2,400,000	0	12,001,383	3,365
ボランティア事業積立資産	7,366,697	0	127	7,366,824	127
健康増進事業積立資産	1,523,824	0	0	1,523,824	0
介護保険事業安定積立資産	15,026,737	0	0	15,026,737	4,418
合計	126,568,445	6,447,690	1,625,736	121,746,491	30,801

評価と課題

- 1 総合会館全面改修工事のため、健康増進事業収入については、令和5年1月末まで休止したため、収入は減少した。
- 2 積立金の社会福祉事業積立金取崩しは、総合会館全面改修工事に伴う社会福祉センター部分の改修のための費用である。
積立金の運用については、理事会の承認を得て、資金運用計画に基づき実施した。

2 公費収入の強化

目標

公益性の高い地域福祉事業について、補助金を確保するとともに委託事業収入、指定管理料収入を確保する。事業人件費についても理解促進を図る。

事業実績

補助金、指定管理料収入、受託事業収入の確保

（単位：円）

種別	令和4年度金額	令和3年度金額
補助金（市、県社協）	35,876,600	31,480,000
指定管理料収入、受託事業収入（市、県社協）	39,635,552	61,915,778
合計	75,512,152	93,395,778

評価と課題

総合会館指定管理の終了に伴い、指定管理料収入、受託事業収入は大きく減少した。

1-3 社会福祉センターの管理経営

目標

善通寺市総合会館が令和4年12月（予定）にリニューアルオープンすることに伴い、社会福祉センターの改修を行い、効果的に運営する。

事業実績

令和5年2月からZEN キューブとして全面リニューアルオープンしたことに伴い、社会福祉センター機能の見直し及び相談室の新設（社協事務所含む。）などの改修工事を実施した。

改修前に福祉サロンとして利用していた2階和室については、善通寺市からの申出により無償貸借契約を締結し、高齢者筋力トレーニング室として運用することとなった。

改修中に利用を休止していた社会福祉関係団体等については、令和5年3月から利用できるよう調整を行い、和室を利用していた団体については、市民会館を継続的に利用できるよう教育委員会と調整した。

- ・利用者人数：4,190人（3年度：10,826人）
- ・利用料収入：189,500円（3年度：204,808円）

2 地域福祉事業部門

2-1 地域共生社会の実現に向けた市社協、地区社協の活動強化

目標

地域の様々な生活課題への対応や地域を基盤にした解決につなげる支援や仕組みづくりを推進するため、小地域における住民主体の福祉活動を一層強化するとともに、社会福祉法人、民生委員・児童委員等関係機関や団体との連携、協働の取り組みを推進し、地域のつながりの再構築を図り、地域共生社会の実現に向けた実践を進める。

事業実績

(1) 市社協の活動強化

- ア 地域福祉活動推進のネットワークづくりとしては、社会福祉施設、民生委員・児童委員、相談支援機関、行政との協働、連携体制づくりを意識しながら、相談支援活動を行うとともに各会議、研修会を実施した。
- イ 住民主体の小地域福祉活動の活性化については、地区社協活動の推進やふれあい・いきいきサロン活動の充実、見守り活動ネットワーク事業の拡充強化に取り組んだ。
- ウ 福祉活動の担い手づくりについては、地域の担い手育成づくりとして、地域福祉リーダー研修を実施するとともに、ふれあい・いきいきサロンパワーアップ研修会を実施したほか、善通寺市地域支え合いセンターここ家での活動の推進、民生委員児童委員の定例会や見守り活動推進員の連絡会等において福祉活動の理解及び協力を促進した。
 - ・地域福祉リーダー研修会の実施
 - 日 時 令和4年12月16日(金)
 - 研修先 徳島県美馬市地域共生交流拠点 小星ベース
 - 内 容 美馬市社会福祉協議会の事業活動状況について 野村よろず会の活動について
 - 参加者 地区社協会長、地区連合自治会長、地区民生委員会長副会長 等 22名
市社協職員 5名
- エ 総合的な相談支援体制の整備については、相談支援事業の強化として、生活困窮者自立相談支援事業、生活福祉資金貸付事業、福祉サービス利用援助事業及び香川おもいやりネットワーク事業の効果的連携により制度の狭間の課題や複合多問題のニーズに対応するとともに、民生委員・児童委員や地区社協と連携し、住民の身近な地域で相談がつながる体制づくりを進めた。また、地域活動の拠点整備として、地域支え合いセンターここ家における地域住民の交流、支え合い活動、居場所づくりを推進した。

(2) 第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画の推進の支援

住民の身近な圏域において地域住民が主体的に地域生活課題の把握や共有、課題解決に取り組む体制づくりと地域住民相互の支え合い活動の推進を目指し、地区地域福祉活動計画の推進について支援を行った。

また、市社協と地区社協が連携して、重点的に今後取り組んでいけるよう地区社協連絡協議会において地区社協モデル事業を提案し協議した。

(3) コミュニティソーシャルワーカー（CSW）業務の推進

- (1) 令和4年度地域福祉コーディネーター研修会（県社協主催）の受講（職員2名）
- (2) コミュニティソーシャルワーカー2名と地区担当職員3名の配置（兼務）
- (3) 広報、啓発（チラシの作成と配布、社協だよ！に記事を掲載し啓発）

コミュニティソーシャルワーカーを配置し、相談機能を強化したことを周知、広報した。また、地区社協やサロン代表者会、地区民児協などに配布し、地域住民と解決する仕組みづくりのコーディネートやプラットフォーム（地域支えあい会議等）づくりについて、周知するとともに、住民の日頃の活動のつながりや、見守り活動ネットワークなど、地域住民の協

力なしにはできない活動であることを伝えた。

(4) 座談会の実施

役員会や、サロン活動者の研修、見守り活動ネットワークの連絡会等において、日頃から地域生活課題の把握と相談が社協につながるよう働きかけた。

(5) 相談連絡メモの見直し及びC S Wシステムの構築

相談連絡メモを活用し、相談内容の把握と共有、C S W業務の可視化のため独自のシステムを構築し、活用した。

【分析結果】

- ・相談経路では本人か地域からの相談が多い中で、一つの受付事例から複数の相談内容に及んでいる。
- ・相談については、電話か来訪による相談が多く、障害や発達障害のある方などから受ける暮らし向きや生活に関する相談が多い中、複数の機関や地域との連携による寄り添い支援を丁寧実施できた。
- ・今後は単なる受付業務や情報提供支援件数の多さを勘案し、広報や福祉教育を含めた情報提供支援のあり方を見直しながら、地域を基盤とし、C S Wを推進していく。

(6) 個別相談、地域福祉活動の相談に対応

民生委員児童委員や地域住民及び関係機関等から寄せられる個別相談、地域福祉活動の相談に対応した。

(7) ネットワークを活かした連絡調整

- ・子どもの貧困等の支援を目的とした食品や日用品等の寄付を支援団体につないだ。
- ・市外からも寄せられる個別相談等においても、連絡調整を行った。

(4) 重層的支援体制整備事業の取り組み

自治体が進める包括的支援体制の整備に向けて、重層的支援体制整備事業の受託に向けて検討を進めた。また、行政と協働で先進地（高松市、さぬき市）を視察し、研修会を実施した。

評価と課題

- ・令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動が制限される中で、地域福祉活動に取り組んだ。
- ・地域福祉活動リーダー研修会では、8地区の連合自治会長、地区民児協会長、地区社協会長が参加し、徳島県美馬市社協の先進的な取り組みと、「野村よろず会」の地域住民同士の支え合いを基盤にした地域の困りごとを住民同士で解決するしくみと活動について学んだ。
- ・地区社協の活動の活性化や、地区地域福祉活動計画の推進について、どのように地域支援ができるかを検討するなか、「地区社協モデル事業」を提案した。基本的な組織体制づくりや、話し合い、協議の場づくり、見守り活動ネットワークの構築や継続に向けての支援、コロナ禍でできなくなっている活動を転換し、居場所づくりや、新たな生活支援サービスの構築に向けて、各地区社協とも、できることから始められるよう、地域担当者と一緒に、役員会や地域福祉活動の場に出向き、相談、企画連絡調整などを行った。
- ・コミュニティソーシャルワーカー業務の推進にあたり、相談の記録が事業ごとに管理されていることや、地域活動の活性化と人材づくりのための情報が分散し共有化されていないことが課題としてあるが、独自に構築したシステムの活用により、相談内容や地域課題を把握、共有するとともに、可視化し、活動に活かしていくことが必要である。
- ・コミュニティソーシャルワーカーの広報により、相談が寄せられた。

2-2 地域福祉活動支援事業の推進

1 地区社協活動事業の推進

目標

日常生活圏域単位で地域の状況に応じた支え合い活動を活発化させ生活課題を抱えた人が住み慣れた地域で安心して自立した生活ができるよう地域づくりを行う。

事業実績

(1) 地区社協の組織と活動の強化（別表3 28P～35P）

- ア 地区社協活動を担う人材の育成
 - ・ふれあい・いきいきサロン研修会、サロン代表者会の実施支援
 - ・地区社協役員研修会の実施支援
- イ 運営費事業費の助成
 - ・助成金額 8,258,350円（共同募金助成金含む。）
- ウ 地区社協担当職員の配置
 - ・地区社協総会（書面決議）の支援、役員会や地区社協活動の企画や連絡調整、相談支援をした。
- エ 見守り活動ネットワーク事業の推進
 - 6地区で民生委員・児童委員と見守り活動推進員の連携による要援護者の見守り活動を推進した。また、地区ごとに連絡会や研修会を行い、見守り対象者や地域の課題など情報交換を行った。中央地区、南部地区については、見守り活動ネットワーク事業の立ち上げについて協議をしていくこととした。
- オ 地区支え合い会議の企画、実施検討
 - 生活福祉課題を抱えるケースについて、自治会や民生委員から相談を受け、市や社協、相談支援機関が出席し、地区支え合い会議を数件実施した。
- カ 地区社協役員、福祉委員等研修会の企画などに協力した。

(2) 地区社協会長連絡協議会の開催

令和4年8月17日	<ul style="list-style-type: none">・地区社協会長連絡協議会の副会長の選任・各地区社協の活動状況と令和4年度事業の進め方について・地区社協モデル事業（案）市社協と連携した取り組み等・市社協特別会費について
令和4年10月24日	<ul style="list-style-type: none">・外出支援事業の課題について協議・各地区社協のこれまでの活動状況と今後の活動予定について・地区社協モデル事業について・地域福祉活動リーダー研修について
令和5年3月27日	<ul style="list-style-type: none">・各地区社協の活動状況、新年度の取り組みについて・サロン、外出支援事業等コロナ禍の対応の変更について・令和5年度地区社協助成金交付基準表(案)について・令和5年度市社協の事業方針について

評価と課題

・地区社協会長会において、コロナ禍における地区社協活動の現状や課題について情報交換、協議がなされた。毎回、各地区の活動状況、コロナ禍における中止や実施する上での注意点について、特に、高齢者等外出支援事業、ふれあい・いきいきサロンの実施について検討した。また第4次地区地域福祉活動計画の推進については地区社協モデル事業を提案し、地区社協と市社協の連携により、活動が活性化するよう働きかけた。今年度もコロナ禍は継続していたが、工夫をしながら、新たな事業に取り組む地区もあった。またこれまで積み重ねてきた給食サービスや見守り活動、サロン活動における安否確認など、つながりづくりを絶やさず、どのように進めたらよいか、今後のアフターコロナも見据えながら活動の再開に向けてもを検討した。

2 ふれあい・いきいきサロン事業の推進

目標

地域の支え合い、閉じこもり防止及び介護予防を目的とし、利用者及び運営ボランティア等の参加
参画で小地域ごとに自主的な相互支援活動としてのサロン活動を展開する。

事業実績

(1) サロン結成

100 グループ（3年度実績：98グループ）

(2) サロン結成運営支援

- ・活動の企画相談支援
- ・活動費助成：総額 994,000 円助成
- ・レクリエーショングッズの貸し出し：30 件
- ・各地区のサロン代表者会、交流会への協力
 - 中央：令和5年3月11日（たかせ天然温泉）
 - 東部：令和5年3月10日（公民館）
 - 西部：令和5年3月23日（公民館）
 - 南部：令和5年3月9日（公民館）
 - 竜川：令和4年12月25日、令和5年3月4日（公民館）
 - 筆岡：令和4年6月21日、9月21日、12月14日、令和5年3月15日（公民館）
 - 吉原：令和4年8月7日、令和5年3月17日（公民館）

(3) リーダー等研修開催

- ・パワーアップ研修会の開催
 - ① 「コロナに負けない！笑顔でつなぐサロン活動」
 - 講師 mottoひょうご 事務局長 栗木 剛 氏
 - 日時 [第1回] 令和4年11月2日 10:30～12:00
 - [第2回] 令和4年11月2日 14:00～15:30
 - 場所 旧善通寺偕行社
 - ② 「簡単でかわいい！衛生グッズを作ろう」
 - 講師 NPO 法人さぬきっずコムシアター 百々 祐子 氏
 - 日時 [第1回] 令和4年10月19日 10:00～11:30
 - [第2回] 令和4年10月26日 10:00～11:30
 - 場所 善通寺市総合会館 3階 研修室

参加合計人数 67人

(4) サロン活動の啓発

- ・広報誌（年4回発行）において、サロン活動を紹介した。

評価と課題

- ・高齢化による参加者の減少や新たな参加希望者が少ない、また、リーダーの後継者がいないなど活動が続けられないことが課題である。また、リーダーの高齢化が進み、活動をする上での負担が大きくなっている。そんな中、令和4年度には新規に4つのサロンが結成された。
- ・コロナ禍で活動が制限される中でもサロングループの多くは、これまでのつながりがきれることがないように工夫し、電話での安否確認や手紙をお届けしたりと、感染防止に気を付けて活動をしている。
- ・サロングループの代表者を対象に、パワーアップ研修会を分散型で実施し、67人の参加があった。

3 地域の居場所づくり事業の推進

目標

ひきこもり状態にある方やその家族が気軽に相談でき、安心して過ごせる居場所作りや地域の理解者を増やすことと、市の関係各課や関係機関とのネットワーク構築のため、市と共催でひきこもり家族の集いを実施した。

事業実績

(1) 地域の居場所づくり

住民主体の居場所づくりとして、東部地区社協主催の「ミニここ家」の実施について支援を行った。「ミニここ家」の実施については、東部地区社協会長からの提案で、検討を重ね、今年度については、1回のみのお試し企画として実施しようということであったが、当日は80名近い参加者があった。

日時 令和4年12月9日

場所 東部公民館1,2階

主な活動内容 カフェコーナー、ミュージックコーナー、健康&福祉相談コーナー
ゲームコーナー

参加者 参加者約80名 スタッフ10人(保健師、社会福祉士、市社協含む)

(2) 「ひきこもり家族の集い」の実施

実施回数：5回

〔第1回〕日時 令和4年6月16日

参加者 参加者2人 スタッフ3人 計5人

〔第2回〕日時 令和4年8月25日

参加者 参加者2人 スタッフ3人 計5人

〔第3回〕日時 令和4年10月27日

参加者 参加者2人 スタッフ3人 計5人

〔第4回〕日時 令和4年12月22日

参加者 参加者1人 スタッフ2人 計4人

〔第5回〕日時 令和5年2月16日

参加者 参加者2人 スタッフ2人 計4人

評価と課題

ひきこもり家族のつどいを定期的に開催することで、少しずつ家族が安心して本人について話せる居場所となっている。本人の様子や家族の状況、病院受診に世帯の近況が把握できる環境となっている。また、家族同士が情報交換を行うことができ、交流を図れる場となっている。

4 高齢者等外出支援事業

目標

高齢者等の日常生活支援や生きがいづくり又は社会参加を促進し、閉じこもり防止と介護予防を目的とした外出支援自動車の運行を地区社協との協働で行う。

事業実績

(1) 【生活支援型】買い物の支援(吉原地区社協)

・利用者数 0人(3年度 0人)

・運行回数 0回(3年度 0回)

(2) 【生きがい社会参加促進型】温泉、四季の行事巡りなど(8地区社協)

・利用者数 1,715人(3年度 406人)

・運行回数 262回(3年度 76回)

評価と課題

コロナ禍により利用を見送るサロンもあったものの運行を休止することは年間を通してなかった。生活支援型については、実施地区である吉原地区において役員会等を実施し、再開の検討を行い来年度から再開することとなった。

5 障がい者福祉の推進

目標

障がい者や課題を抱える人が地域で安心して暮らせるように、その活動を支援する。

事業実績

(1) 当事者組織の活動支援

- ・善通寺市が実施する精神障がい者の居場所づくり事業「ふれあいポートぜんつうじ」に職員が参加した。

(2) 福祉自動車貸出

- ・利用回数 27回（3年度95回）
- ・貸出車両 2台

(3) ふれあいふくしまップのweb上での更新と公開

- ・ふれあいふくしまップの今後のあり方について協議が必要と判断したため、更新はできなかった。

評価と課題

福祉自動車貸出事業については、事故が起こった際の保険の取り扱いなどの課題があり、今後も継続して協議していく必要がある。

6 地域安心生活推進事業の推進

目標

居宅要援護者把握事業について、地域の日常的な見守り活動や緊急時に活用できるように、民生委員・児童委員と協働し実施する。

事業実績

(1) 民生委員との協働による居宅要援護者把握事業の調査実施

- ・見守り活動に活用することを目的とし、65歳到達者の訪問調査を民生委員・児童委員の協力により実施した。安心キットについては、希望者に配布し自己管理していただく方法で推進した。（新規調査依頼件数 357件、うち登録同意数 78件、新規安心キット配布数 59件）
- ・民生委員や本人からの登録内容の変更を随時受け付け、要援護者台帳の更新を行った。（月平均15件）

(2) 地域での見守り活動の推進

- ・コロナ禍において、外出や地域の交流行事が中止となり、高齢者等の孤立化が懸念される中、民生委員・児童委員や見守り活動推進員、福祉協力員、また、ふれあい・いきいきサロンによる見守り、声かけを継続して行った。
- ・広報活動として、市社協広報紙「社協だよ！」において、各地区の見守り活動関連記事を掲載し、見守り活動の啓発を行った。

評価と課題

・事業の見直しを行い、見守り活動を目的とした居宅要援護者把握事業となったが、この事業で把握しているひとり暮らし高齢者等について、災害時や災害発生後の具体的な対応について決まっていないため、安否確認等の支援も含めて関係者で協議していく必要がある。

見守り活動の意識啓発及び事例検討会の実施には至らなかったため、今後検討していく。

7 関係団体の運営に係る事務の受託

目標

関係団体の事務局事務を受託し、併せて活動を支援する。

事業実績

- (1) 民生委員児童委員協議会運営事業【市受託事業】
 - ・市民児協事務局の担当（事務、会計、企画相談支援）
 - ・民協理事会、単位民児協への出席 108回
 - ・主任児童委員定例会、研修会への出席 11回
 - ・全員研修会、県、県民児協研修会等各種会議 10回
- (2) 老人クラブ連合会事務局事務【市受託事業】
 - ・社会奉仕活動事業 4回
 - ・月例理事会等 12回
 - ・県老人会議等 11回

評価と課題

市民生委員児童委員協議会及び市老人クラブ連合会の運営が円滑に進められるよう事務局として連絡、調整、企画の支援が行えた。

8 物品貸出事業

目標

車椅子や福祉教育物品等を貸し出すことにより、生活支援や福祉教育の推進を図る。

事業実績

- (1) チャイルドシート貸出し
 - ・新規貸出し 46件、継続貸出し 21件
- (2) 車椅子貸出し
 - ・246件
- (3) 福祉教育物品等の貸出し
 - ・レクリエーション遊具 26件
 - ・ボランティア、福祉教育備品 3件
 - ・イベント関連 6件

評価と課題

チャイルドシート貸出については、需要は多いが、安全性の担保がなく、リスクマネジメントの観点から検討が必要である。

9 広報、啓発の推進

目標

地域の方への情報発信と啓発活動を推進し、地域福祉活動の理解を図る。

事業実績

- ・「社協だよ！」を年4回発行し、全世帯へ配布した。
- ・ホームページの完全リニューアルのため、業者と打合せを実施し、リニューアルの目途を立たせることができた。

10 福祉教育推進事業の推進

目標

地域住民の福祉に関する理解と関心を高め、地域における主体的な福祉活動を活性化し、地域の福祉力を高めていく。

事業実績

善通寺市社会福祉大会の開催

新型コロナ感染症拡大防止のため参加人数を制限し、下記のとおり開催した。

日時：令和4年11月24日（木） 13：30～15：30

場所：善通寺市民会館大ホール

内容：表彰式典、記念講演

記念講演 演題「これからの地域福祉のあり方」

～重層的支援体制整備事業が目指すもの～

講師 NPO 法人さくらネット 代表 石井布紀子 氏

参加者：150人

11 生活支援コーディネーター業務の受託【市受託事業】

目標

日常生活上の支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要な多様な主体による生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため、支援ニーズとサービスの調査を行う。

事業実績

(1) 地域に不足する高齢者に対するサービスの把握

- ・民生委員・児童委員や地区社協関係者から寄せられる相談の中で、高齢者の生活福祉課題を把握した。

(2) 善通寺市生活支援等サービス協議体への情報提供

- ・協議体に出席し、社会福祉協議会が把握した高齢者の生活福祉課題について報告した。

評価と課題

次年度においても、民生委員等から高齢者の生活福祉課題を把握するとともに、座談会等において地域課題を把握していくことが必要である。

3 ボランティア活動部門

1 ボランティア、市民活動の推進

目標

市民による自主的なボランティア活動が展開しやすい環境を整えボランティア、市民活動を活性化させ、地域の生活課題への対応ができるボランティアの育成とそのネットワークづくりを目指す。

事業実績

- (1) ボランティア・市民活動センター「ボラン家」の運営
 - ・ フリースペース、活動紹介コーナー、情報発信コーナーの設置
開所日数：38日（月曜から金曜の9時から17時まで）
フリースペース利用者数：101人
活動紹介スペースの利用（ミニ作品展：0回）
ボランティア団体紹介コーナーの設置
 - ・ コミュニティかふえの運営支援（週1回火曜日）
コミュニティかふえ実施回数：3回、来場者数：80人
- (2) ボランティア情報提供、啓発
 - ・ 「社協だよ！」Do ボランティアコーナー、ホームページでの啓発
ボランティア・市民活動センターの周知
Do ボランティアコーナーでボランティア（個人及び団体）を紹介（掲載：4回）
- (3) ボランティアグループの支援、連携
 - ・ ボランティア保険の加入促進
活動保険（団体、個人等）：24件（524人）、行事用保険：4件（140人）
 - ・ 活動の相談援助

評価と課題

市総合会館改修工事のため、令和5年2月4日までボラン家を閉所した。
活動紹介スペースを利用したミニ作品展をすることができなかった。
3月からコミュニティかふえが再開したが、以前に比べて利用者が少ない。今まで利用されていた層の参加も減っており、ボラン家の利用者の減少が課題であるため、今後活動をアピールしていく必要がある。

2 災害ボランティア活動支援体制の整備

目標

災害時にボランティア活動が円滑かつ効果的に行えるよう、支援体制を整備するとともに、感染症にも対応したマニュアルの検証を行う。

事業実績

災害ボランティアセンター運営マニュアルを活用した職員対象の研修を実施する計画を予定したが、マニュアルの配布、周知に留まった。

評価と課題

災害ボランティアセンター運営マニュアルに基づき、市関係課との設置基準などの擦り合わせを含めた市関係課及び職員の研修を実施する必要がある。

4 相談支援事業部門

1 総合相談・援助センターの設置と運営

事業実績

(1) 相談事業

区分	回数	相談件数
法律相談	12回	65件
法務登記相談	12回	26件
一般相談	24回	22件

(2) 一般相談員研究協議会

3月4日に実施。研修を実施。

研修① 一般相談事例から考える法的な対応について

講師：丸亀みらい法律事務所 弁護士 久保田 仁氏

研修② 事例を基に学び合う

評価と課題

- ・一般相談では、専門的な相談もあり、本会実施の法律相談、法務登記相談や他関係機関に繋ぐことが出来た。

2 権利擁護支援事業の推進

目標

判断能力が不十分な高齢者、障がい者等が地域で安心して暮らせるように関係機関と連携を図りネットワークを構築し、福祉サービス利用援助事業、法人後見事業を推進する。

事業実績

(1) 福祉サービス利用援助事業の推進【県社協委託事業】

- ・専門員 4人、生活支援員 10人
- ・専門員研修会 2回（権利擁護事業担当者会、相談事業担当者定例会 等）
- ・生活支援員等研修 4回（生活支援員研修会、権利擁護人材育成研修会 等）

【契約、相談状況】

- ・契約締結件数（令和4年度新規）

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	生活保護 (再掲)	合計
契約者数(人)	1	3	1	0	0	5

- ・契約終了件数（令和4年度内）

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
終了者数(人)	1	2	1	0	4

- ・実利用件数（令和5年3月末現在）

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
利用者数(人)	7	12	6	2	27

・相談内容 ※重複あり（単位：件）

種 別	高齢者	知的	精神	その他	合計
福祉サービスの手続き	0	1	2	0	3
日常的な金銭管理	111	233	100	33	477
書類預かり	27	2	1	0	30
保健サービスの手続き	0	0	0	0	0
医療に関する事項	1	2	0	0	3
福祉サービスに関する苦情	0	0	0	0	0
今後の生活設計	464	2347	535	104	3450
本事業に関する問い合わせ	0	0	0	0	0
成年後見制度に関する問い合わせ	0	0	0	0	0
その他	43	0	0	0	43
初回相談	7	3	0	0	10
合 計	653	2588	638	137	4016

(2) 法人後見事業の推進

受任件数：1件 相談件数：0件

(3) 関係機関とのネットワークづくり

- ・NPO 法人後見ネットかがわとの連携、相談支援
- ・中核機関との連携

評価と課題

- ・利用相談の増加に伴って、事業の実施の体制を整えていく必要がある。
- ・単に金銭の管理だけではなく、複合的な課題を抱えている世帯が多く、生活困窮者自立支援事業やCSW担当者、また利用者が関係する施設や事業所、行政等の関係機関と連携し、密な情報交換を行うことで、重層的な支援に努めた。今後は世帯の生活課題を整理し、さらに連携強化し、本人の生活の質の向上に努めていく。
- ・権利擁護人材育成研修への周知、案内を行い、新しい生活支援員等の養成に取り組んだ。
- ・善通寺市の中核機関と連携し、担当者会へ参加（2か月に1回）した。権利擁護支援体制に関する課題を協議するためのニーズ把握や、ケースの相談を行った。

3 ぜんつうじ生活自立相談支援センターつながるねっとの運営（市委託事業）

（生活困窮者自立相談支援事業の推進）

目標

生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者の自立の促進に向けた自立相談支援等を進める。行政や関係機関との連携を促進する。

事業実績

(1) 自立相談支援事業の推進（市委託事業）

- ・総括 1人（局長兼務）、主任相談支援員 1人（専任）
- ・相談支援員兼就労支援員 1人（地域福祉兼務）

【相談実績】新規相談 270件（令和3年度 299件）

① 相談者

区分	本人	家族、親族	関係者（関係機関）	知人、隣人	その他
件数（件）	181	12	73	4	0

② 相談経路

区分	直接	関係者（関係機関）	その他
件数（件）	100	※170	0

※関係機関経由内訳

区分	社会福祉課	税務課	子ども課	高齢者課	市（左記以外の担当課）	病院
件数（件）	32	5	13	17	9	2

市以外の行政機関	民生委員・児童委員	ハローワーク	障害の相談支援機関	社協（県、他市町含む）	その他
5	19	11	6	44	7

③ 対象者性別

区分	男性	女性	不明、その他
件数（件）	110	151	9

④ 対象者の年代

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60～64才	65～69才
件数（件）	4	21	26	46	28	21	22

70代	80代以上	不明
42	13	47

⑤ 相談内容（初回相談時） ※重複あり

区分	件数（件）
病気や健康、障がいのこと	20
住まいのこと	22
収入、生活費のこと	147
支払、債務のこと（家賃、光熱費、医療費、税金、ローン等）	58
仕事に関すること（仕事探し、仕事上の不安、トラブル等）	21
家族との関係について（子育て、介護含む）	48
ひきこもり、不登校	5
食べるものがない	15
その他（地域との関係、日常の心配事等）	46
コロナ関係の相談	55

⑥ 相談継続状況

区分	相談継続	経過観察	終了
件数（件）	87	98	85

⑦ 支援申込みの有無

区分	申込み 有	申込み 無
件数（件）	61	209

⑧ 対応状況（前年度からの継続を含む。）

ア. 支援調整会議の実施 10回19ケース（プラン作成16件）

イ. 住居確保給付金の利用 8件

ウ. 任意事業の利用

・学習支援事業の利用 3件

エ. 独自事業で対応

・ストックヤードの利用 2件

・フードバンクの利用 104件（緊急支援として19件、年末の配布会で85世帯）

・家計相談支援 12件

- オ. 生活保護受給者等就労自立促進事業の利用 4件（うち、就労決定 2件）
- カ. 自立相談支援事業所による就労支援 6件（うち、就労決定 4件）
- キ. 生活福祉資金の貸し付け利用支援 ※他機関との連携支援による就労決定も含む
通常の貸付 3件（うち1件不承認）
特例貸付 37件
- ク. 法テラスを利用しての債務整理 1件
債務整理等相談 7件
- ケ. 生活保護へのつなぎ（受給決定） 3件
- コ. 居住支援（アパート探し、転居支援） 2件

評価と課題

- ・ 上半期（4月～9月末まで）は、新型コロナウイルスの影響を受けた方の貸し付け（特例貸付）に関する相談が多く寄せられ、貸し付け担当者と連携して支援を行った。
- ・ 令和5年1月から特例貸付の償還が始まり、返済が困難な方への猶予申請等の支援を行った。
- ・ 令和5年度から特例貸付の利用者に対するフォローアップ支援が始まることから、現在も生活に困窮している世帯への支援がより一層求められる。
- ・ 生活困窮者自立支援全国ネットワーク主催の全国大会（オンライン開催）に参加し、自立支援事業の理念や先進地の実践事例等について学ぶことができた。
- ・ 県社協主催の3担当（生活福祉資金、日常生活自立相談支援事業、生活困窮者自立支援事業）合同定例会や、生活福祉資金の説明会（オンライン開催等）に参加し、ネットワークの構築や連携に努めた。
- ・ 地域関係者や香川おもいやりネットワーク、企業の方の協力により、年末にフードドライブと食料品の配布会を実施することができた。
- ・ 顧問弁護士に日常的に相談できる環境にあることで、法的な支援が必要な方をスムーズに法律相談につなぐことができた。
- ・ 住居確保給付金や生活困窮者自立支援金の利用がスムーズに行えるよう、社会福祉課と連携して対応した。
- ・ おもいやりネットワークの担当者と連携し、制度の狭間にある相談者への対応に努めた。
- ・ 家計改善支援事業の導入に向けて、社会福祉課と一緒に他市への視察を行った。

4 香川おもいやりネットワーク事業の推進

目標

地域の深刻化する福祉課題や生活課題に対応するため、香川県内の社会福祉法人や関係機関、団体が協働し、生活のしづらさを抱え支援を必要とする方をトータルで支える仕組みづくりを進める。社会資源やサービスの開発、人材の育成、福祉教育の充実、実施体制の整備に取り組む。

事業実績

(1) 総合相談支援（緊急的経済支援）

- ・ 経済支援 2件（令和3年度：0件）、経済支援に至らない相談 1件

(2) 施設や保健、福祉、医療等の関係者の連絡会の実施

- ・ 地域ネットワーク会議の実施

日時：令和4年11月8日

内容：講演「香川おもいやりネットワーク事業の現状と課題について」

講師 社会福祉法人 香川県社会福祉協議会 事務局長 日下 直和氏

グループワーク（講演を聴いての感想、コロナ禍や最近の相談等での課題など情報交換）

(3) 連携、協働による事業企画、事業の推進

- ・ ここ寄席、ここめし、ここめし女子会を実施した。

評価と課題

- ・制度では対応できない生活のしづらさを抱える方の相談支援について、生活困窮者自立支援事業担当者や関係機関と連携し実施した。
- ・ここ家の生きがい広場と連携し、地域の方が語り手となって集える場「ここ寄席」を実施した。
- ・生活困窮者自立支援事業と連携し、ここめし、ここめし女子会を実施した。
- ・地域ネットワーク会議では、香川おもいやりネットワーク事業ができた背景や現在の仕組み、取り組み実績や課題などについて、香川県社会福祉協議会の日下局長からご講演いただいた。また、グループワークでは分野を超えて地域の実情について話し合い、地域の課題を共有したり、地域の取り組みについて話し合ったりすることで、顔の見える関係づくりができた。

5 生活福祉資金貸付事業の推進【県社協受託事業】

目標

低所得者又は障がい者、高齢者世帯などに対し、資金の貸し付けと必要な援助指導を行うことによって、生活の自立を促進する。

事業実績

1. 資金の貸付

新型コロナウイルス感染症の影響により、休業や失業等により生活資金が必要な方のための特例貸付の実施に伴う相談の体制を整備し、支援を行った。

- ・相談件数：245件
- ・令和4年度申し込み件数：88件（内 貸付決定件数：75件）

貸付申し込み種別内訳

種別	内訳	件数（決定件数）
緊急小口資金	初回給与のつなぎ資金、その他	2件（2件）
	生活保護つなぎ資金	7件（7件）
福祉資金	葬祭費、技能習得費	2件（1件）
教育支援資金	高校、専門学校、大学	6件（6件）
特例貸付	特例緊急小口資金	33件（25件）
	特例総合支援資金	38件（33件）

2. コロナ特例貸付における償還免除等の取組

令和5年1月から償還開始となる特例貸付の借受人（令和4年度免除対象債権数）を対象に、償還免除と口座振替の手続き支援を行った。対象世帯333世帯のうち144世帯が償還免除となり、償還免除には至らないものの返済が困難な6世帯が猶予申請を行った。

口座振替の手続き完了が188件、免除申請・口座振替ともに未手続きが106件となっている。

種別	内訳	決定件数（世帯数）
免除申請	非課税免除	131件
	任意免除（生活保護、自己破産、死亡）	13件
猶予申請	療養、離職、減収等	6件
償還完了	一括返済等	5件

※コロナ特例全体の債権数としては721件、うち令和4年度免除対象債権数が532件。

評価と課題

- ・通常の緊急小口資金の申し込みの半数以上が生活保護のつなぎ資金で、福祉事務所からの相談も増加していることから行政との協働体制が重要である。
- ・生活困窮者自立相談支援事業や福祉サービス利用援助事業と連携して相談者の支援を行う必要がある。
- ・教育支援資金、福祉資金等、資金の種別によっては揃える書類が多くて労力がかかる上、貸付審査は原本が届いてからになり時間もかかるため、緊急の支援が必要な場合は手続きの簡素化を検討する必要がある。
- ・特例貸付の申込期間が終了し、生活に困窮しているが通常の貸し付けは対象とならない相談者が増えており、対応困難な方は生活困窮者自立相談支援事業につなぎ、対応している。
- ・令和5年1月より、特例貸付の償還が始まっており、免除申請や猶予申請等の相談も増加しているため、生活困窮者自立支援事業と連携しての対応がますます重要となる。
- ・コロナ特例の償還開始に伴う未手続きの世帯が106件あり、フォローアップ支援が必要である。

5 善通寺市地域支え合いセンターここ家事業部門

目標

多種多様な取組みを地域住民が主体的に選択し、参加参画できるように企画し、連絡、調整する。また、複雑多様化する地域ニーズに対応できるよう、住民主体の多様なサービスを有した新たな介護予防と地域福祉活動の拠点の機能を最大限活かした支援を市全体で検討し構築していく。

事業実績

1 生きがいひろば事業の推進

(1) 生きがいひろば事業の運営

- ・地域住民の趣味や特技を活かして、体操や手芸、工作等の講座を実施し、新たな交流を図り、いきいきと過ごせる居場所づくりを推進した。
- ・講座実施回数：145回（3年度：90回）
- ・講座利用人数：500人（3年度：298人）
- ・その他の利用者数：1,266人（3年度：1,007人）
- ・ボランティア数：102人（3年度：66人）

(2) ワンディキッチンでの運営支援

食を通じたコミュニティづくりを目指して、地域住民の主体的な参画のもと日替わりシェフの店なないろの運営を支援した。新たなつながり、支え合い活動を推進するとともに、地域住民が食を中心に気軽に寄れる居場所を提供した。

- ・開店日数：197日（3年度107日）
- ・利用者数：5,940人（3年度：3,173人）
- ・シェフ、アシスタント数：428人（3年度：284人）
- ・シェフの会：11回開催

(3) 発達障がい者等の居場所事業（ゆるゆるカフェ）

昨年度に引き続き、対象者を発達障がいのある方に限らず、コミュニケーションに不安を抱える方とし、居場所を開催した。その中で発達障がいに関する相談が気軽にできるよう、アルプスカがわ地域サポート委員の協力のもと、年に3回相談会（カフェ de 相談）を実施した。

- ・開催回数：11回
- ・参加人数：参加者11人、スタッフ27人

(4) ここめし、ここめし女子会の実施

生活のしづらさを抱えた方や地域とのつながりが薄い方等が、食を通じて地域住民とゆるやかにつながれ、生活に困りごとが生じたときに気軽に相談できるような居場所としてここめしを5回実施した。また、女性が気軽に寄れる場としてここめし女子会を1回実施した

- ・ここめし打ち合わせ会 年5回
- ・ここめし延べ参加人数：参加者122人、地域のスタッフ20人、社協スタッフ24人
- ・ここめし女子会参加人数：参加者2人、社協スタッフ3人

(5) ここ寄席の実施

地域で活動する方や専門職、当事者等に活動の内容や体験したこと、将来取り組みたいことなどを語ってもらいながら、参加者（地域住民）の共感や気づき、学びの場（機会）をつくることを目的として、年に3回実施した。

[第1回] 令和4年8月29日

[第2回] 令和4年11月21日

[第3回] 令和5年2月20日

評価と課題

- ・生きがいひろば事業や日替わりシェフの店などいろは、新型コロナウイルス感染症防止対策を継続し、地域住民の交流や支え合い活動が継続的に開催できるよう推進した。参加者からは「集える場所があり出会いがあり（仲間がいるため）新しいことにチャレンジする意欲がわいた。作品作りに達成感があった。」との声があった。来年度も、市民がチャレンジできる安心安全の場の提供と集客に努める。
- ・発達障がい者等居場所事業については、前年度同様対象者の幅を広げ、コミュニケーションに不安を抱える方を対象とし実施した。居場所の取り組みの一環として、アルプスかがわ地域支援サポート委員に相談員として来てもらい、居場所に参加する中で気軽に発達障害に特化した相談が受けられる相談会（カフェ de 相談）も実施した。参加者が就労等で来られないことがあり、参加者がいない回もあった。今後の居場所のあり方について関係機関と協議した。
- ・ここめしについては、コロナ禍でも開催できる方法を検討し、2か月に1回開催することができた。会を重ねるごとに参加者と地域の方（ボランティアスタッフ）、参加者同士の交流が見られ、安心できる居場所となっていることが伺えた。また、会の開催にあわせてスタッフ同士で打ち合わせの会を持ち、前回の振り返りや次回の開催にあたっての意見交換や情報共有を行うことで、参加者とのコミュニケーションが取りやすく、楽しんで参加してもらえる居場所となっている。ここめし女子会では少人数でゆっくりと話をしながら楽しいひと時を過ごすことができ、また開催してほしいとの声に参加者から寄せられた。
- ・ここ寄席については、語り手にこれまでの経験や思いを語ってもらうのとあわせて、参加者との交流を大切にしながら参加型の会となるよう意識して実施した。今後の運営方法の参考のため参加者へアンケートをとり、意見をいただいた。また、市民に広く知ってもらうため、広報に案内を掲載するのとあわせて、チラシを市内18か所に配布した。

2 通所サービス事業（介護予防・日常生活支援総合事業）【市受託事業】

後掲（6 在宅福祉事業部門）

3 通所型一般介護予防事業（くすの木脳トレコース事業）【市受託事業】

後掲（6 在宅福祉事業部門）

6 在宅福祉事業部門

訪問介護事業、障害福祉サービス事業のサービス提供時間は利用者減により減少した。通所サービス事業利用者は増となった。訪問体制の効率化により介護保険事業等収支の改善を図った。

6-1 ホームヘルプサービス

目標

支援を必要とする高齢者や障害者及び難病患者が在宅で生活を営むために必要な介護及び生活援助を行い、自立促進と社会的孤立の解消及び要介護、要支援状態への予防に努め、在宅生活を継続できるよう支援する。

(1) 障害福祉サービス（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援事業）

達成基準 延べ利用者数：年間 290 人、時間数：3,300 時間、回数：3,300 回

事業実績

延べ利用者数：年間 265 人（3 年度：272 人）

延べ利用時間数：3,296 時間 30 分（3 年度：3,333 時間）

延べ利用回数：3,204 回（3 年度：3,401 回）

サービス種別	年間延べ利用時間（時間）	年間延べ利用回数（回）
身体介護	179：30	359
家事援助	2,412：00	2,295
通院介助（身体介護を伴う）	89：00	44
同行援護（身体介護を伴わない）	52：00	52
同行援護（身体介護を伴う）	383：30	267
移動支援	178：00	187
合計	3296：30	3,204

(2) 訪問介護事業

達成基準 延べ利用者数：年間 230 人、時間数：2,500 時間、回数：2,500 回

事業実績

延べ利用者数：年間 219 人（3 年度：241 人）

延べ利用時間数：2,459 時間（3 年度：3,037 時間）

延べ利用回数：2,467 回（3 年度：3,073 回）

(3) 指定訪問サービス事業

（介護予防・日常生活支援総合事業）【市委託事業】

達成基準 延べ利用者数：年間 630 人、時間数：4,200 時間、回数：4,200 回

事業実績

延べ利用者数：年間 629 人（3 年度：634 人）

延べ利用時間数：4,195 時間（3 年度：4,226 時間 15 分）

延べ利用回数：4,209 回（3 年度：4,228 回）

区 分		令和5年3月 (人)	令和4年3月 (人)	前年対比 (人)
(2) 訪問介護事業	要介護1	11	15	△4
	要介護2	5	2	3
	要介護3	3	2	1
	要介護4	0	0	0
	要介護5	0	0	0
(3) 指定訪問サービス事業	総合事業 要支援1	29	27	2
	総合事業 要支援2	29	20	9
合 計		77	66	11

(4) 訪問サービス事業

(介護予防・日常生活支援総合事業)【市委託事業】

事業実績 延べ利用者数：年間176人（3年度：199人）
延べ利用時間数：578時間15分（3年度：603時間45分）
延べ利用回数：771回（3年度：805回）

6-2 居宅介護支援事業

目標 住み慣れた地域での生活が継続できるよう地域の社会資源と協働しながら要介護者の自立支援を行う介護サービスの調整だけでなく生活全般を支援し生活環境の改善が可能になるよう、社協らしいプランを作成する。

達成基準 延べ利用人数年間：960人 月間：80人

事業実績 延べ利用人数年間：961人（3年度：985人）

6-3 通所サービス事業（介護予防、日常生活支援総合事業）【市受託事業】

目標 脳トレなどの機能の活性化を目的とした介護予防レクリエーションを実施し生活にメリハリをつけるとともに、活動を通して、支えられるだけでなく地域でなすべき役割があることを認識していただき、地域で共に支え合う関係づくりを推進する。

達成基準 登録者数：50人、

利用実績 登録者数：53人（3年度：48人）

延べ利用人数：2,987人（3年度：2,833人）

ボランティア延べ人数：152人（3年度：191人）

6-4 通所型一般介護予防事業（くすの木脳トレコース事業）【市受託事業】

利用実績 登録者数：52人（3年度：27人） 実施回数：78回（3年度：62回）

延べ利用人数：1,084人（3年度：364人）

サポーター延べ人数：506人（3年度：297人）

評価と課題

- ・市委託事業訪問サービス事業は同様の訪問生活支援事業があること及び従事する職員の確保が難しいことから、令和5年3月31日に事業を廃止した。
- ・通所サービス事業は、新型コロナウイルス感染症対策を継続して行い、利用者数の減少もなく継続できた。また54人の利用者アンケート調査を行い、職員の対応は39人（72%）が満足、サービス内容等は40人（74%）が満足、今後も利用したい利用者は41人（75%）満足との回答だった。
- ・通所型一般介護予防事業でのアンケート調査では30人中27人（90%）の利用者が今後も利用したいとの回答だった。

7 共同募金運動への協力

目標

民間福祉活動を総合的かつ効果的に推進し、社会福祉への住民の理解を深める。共同募金運動に協力することによって、地域福祉の推進に貢献する。

事業実績

(1) 共同募金運動

- ・善通寺のまちをよくするプロジェクト募集 4月
- ・審査委員会の開催 2回 助成事業審査等
- ・運営委員会の開催 3回 共同募金推進計画等について（2回は書面表決）
- ・募金実績

区分	目標額（円）	実績額（円）	達成率（%）	
地区	中央	830,900	811,800	97.7
	東部	1,087,100	1,085,100	99.8
	西部	499,100	567,500	113.7
	南部	650,200	595,000	91.5
	与北	369,600	421,800	114.1
	竜川	1,007,200	937,700	93.1
	筆岡	679,100	830,700	122.3
	吉原	557,600	597,900	107.2
事務局	886,200	822,708	92.8	
合計	6,567,000	6,670,208	101.6	

- ・助成実績 令和3年度募金（令和4年度事業）

事業名	実績額（円）	助成先
地域福祉推進事業	2,410,203	地域福祉活動計画に基づく市社協の実施事業
小地域福祉活動事業	1,830,600	8地区社協
地域福祉活動支援事業	565,000	福祉団体、地域団体（16団体）
合計	4,805,803	

- ・災害見舞金給付金：0円

(2) 歳末たすけあい運動

- ・募金運動については、婦人会及び自治会の協力で戸別募金、大口募金を実施。自衛隊営内居住者については、事務局から依頼した。
- ・歳末たすけあい運動実行委員会の開催 2回
- ・募金実績

区分	金額（円）
戸別募金、特別募金	2,072,800
営内募金	41,500
合計	2,114,300

・助成実績

種類	件数	助成金額（円）
児童福祉施設利用者	583	382,500
障害児（者）関係	71	71,000
準要保護児童等在宅関係	380	597,500
地区社協、婦人会、自治会、市社協	17	1,076,583
公募事業	1	6,000
合計	1,052	2,133,583

※ 募金実績 2,114,300 円と助成実績額 2,133,583 円の差額 19,283 円は令和 3 年度執行残を含むための相違である。

(3) 善通寺市歳末たすけあい運動協賛事業善通寺チャリティ美術展

・善通寺チャリティ美術展の実施

ZEN キューブリニューアルオープンイベントに合わせ、弘法大使空海御誕生 1250 年祭連携イベントとして開催した。

日時 令和 5 年 2 月 5 日（日）～ 2 月 9 日（木）

10:00～16:00（5 日は 11:00 から開催）

場所 善通寺市総合会館 3 階特設会場

内容 県内外の有名寺院の名僧、著名な書家、美術家から寄贈された書
絵画、工芸品等を展示即売

出展作品数 139 点 作品協力者 64 人

チャリティ即売売上金 1,931,500 円

※市社協地域福祉事業へ繰入金支出 800,000 円

評価と課題

- ・歳末募金では、公募による助成を 1 件実施した。
- ・共同募金及び歳末募金の実績額については、毎年度減少しており、新たな仕組みづくり（募金百貨店、ガチャガチャ募金、自動販売機募金等）を検討していく必要がある。

別表 1

善通寺市社会福祉協議会職員数の推移

(人)

年度 4月1日現在	常務理事	事務局長	施設長、課長	法人運営係			事業係			老人ホーム (市指定管理)		合計
				法人運営	無料職業紹介事業(人材バンク)	総合会館(市指定管理)	地域福祉担当	在宅福祉担当(介護保険)	老人ホーム	サロン五岳		
21	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4	36	15(兼2)	1(兼2)	62	
22	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4 (老人クラブ受託)	40	15(兼2)	1(兼2)	66	
23	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4	36		廃止	46	
組織変更	1	1	次長	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	地域福祉係		在宅福祉係		48	
24							4	38				
25	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4	41(兼10)		51		
26	1	1	1	3(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4	38(兼10)		49		
27	1	1	1	3(兼3)	(兼1)	1(兼3)	5 (生活困窮受託)		39(兼12)	51		
28	1	1	1	3(兼3)	(兼1)	1(兼3)	地域福祉 3 相談支援 2 生きがいひろば 6(兼務5)		33(兼10)	51		
29	1	1	1	3(兼3)	(兼1)	1(兼3)	3	2	2(兼1)	33(兼10)	47	
30	1	1	1	老人クラブ 4(兼3)	(兼1)	1(兼3)	2	2	1(兼1)	33(兼10)	46	
31	1	1	1	4(兼3)	(廃止)	1(兼3)	3	2	1(兼1)	31(兼5)	45	
令和2		1	廃止	3(兼2)	老人クラブ 1	1(兼3)	2	2	(兼2)	25(兼2)	35	
令和3	1	1		2(兼2)	老人クラブ 1	1(兼3)	3(兼2)	2	(兼2)	22(兼2)	33	
令和4	1	1		4(兼1)	老人クラブ (兼1)	廃止	2(兼3)	2	1(兼2)	22(兼5)	33	
令和5	1	1	1	3(兼1)	老人クラブ (兼1)	廃止	地域支援 3(兼2)	相談支援 4		22(兼4)	35	

善通寺市社会福祉協議会職員構成 (令和5年4月1日)

(人)

区分	(嘱託) 経営職	総合職	一般職	専門職	嘱託 (再雇用含む)	パート職	契約職	合計
常務理事	1							1
事務局長		1						1
事務局次長		1 (+1)						1 (+1)
法人運営係		1 (-1)	1 (-1)		1 (+1)			3 (-1)
地域福祉係		4	1 (+1)	1 (+1)		1		7 (+2)
在宅福祉係		(-1)	1	4 (-1)	2		15 (+2)	22
令和5.4.1 合計 構成比	1 2.8%	7 (-1) 20%	3 8.6%	5 14.3%	3 (+1) 8.6%	1 2.8%	15 (+2) 42.9%	35 (+2) 100%
令和4.4.1 合計	1	8	3	5	2	1	13	33

※ () は前年度対比

総合職 -1名 定年退職による1名減

一般職 ±0名

専門職 ±0名 地域福祉係新規採用による1名増、介護保険事業所職員退職による1名減

嘱託再雇用 +1名 再雇用による1名増

パート・契約職 +2名 介護保険事業所契約職員採用による2名増

総合計 +2名

令和4年度会員会費の状況

(令和5年3月31日現在)

区分 地区	一般会費	賛助会費	特別会費	合計	世帯数(自治会 加入世帯数)
	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	
中央	859	37	58	954	1,122
	472,500	42,000	500,000	1,014,500	
東部	1,345	71	39	1,455	1,466
	681,500	71,000	360,000	1,112,500	
西部	674	96	30	800	674
	337,000	96,000	290,000	723,000	
南部	691	19	22	732	878
	350,500	25,000	200,000	575,500	
与北	493	38	8	539	499
	246,500	42,000	75,000	363,500	
竜川	1,360	49	37	1,446	1,360
	680,000	50,000	335,000	1,065,000	
筆岡	862	115	43	1,020	917
	471,000	125,000	370,000	966,000	
吉原	624	98	54	776	753
	326,500	102,000	525,000	953,500	
小計	6,968	531	291	7,727	7,666
	3,565,500	553,000	2,655,000	6,773,500	
その他			4	4	
			40,000	40,000	
合計	6,905	531	295	7,731	
	3,565,500	553,000	2,695,000	6,813,500	

前年度	7,055	538	307	7,900	
	3,527,500	573,000	2,845,000	6,945,500	
対比	97.8%	98.6%	96.0%	97.8%	
	101.0%	96.5%	94.7%	98.0%	

令和4年度 地区社協事業報告〈中央地区〉

(令和 4. 4. 1～令和 5. 3. 31)

目標	心身ともに飛躍する空海のまち	設立年月日	平成2年1月16日
----	----------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	6月 総会資料を役員、運営委員、福祉委員に郵送 (書面表決により実施)	6名
監査	5/26	5名
役員会	5/26 総会資料作り	20名
	6/6 総会資料を郵送準備	6名
	7/10 総会資料の結果報告	20名
研修会	11/18 自治会、サロン代表者と参加	25名
サロン代表者会	3/11 サロン事業の実績及び新年度の計画について	名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者 民生委員 10回(R4.1.1～R4.12.31) 651人(R4.1.1～R4.12.31)
在宅要援護者安否確認事業	対象者 訪問担当者 訪問回数 延べ対象者数	80歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯、障がい者等 民生委員 12人 5,157回(R4.1.1～R4.12.31) 3,410人(R4.1.1～R4.12.31)
ふれあい・いきいきサロン 高齢者等外出支援事業	14グループ 運行回数 57回、延べ利用者数 388人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
赤門八日市	毎月8日 赤門筋	薬師堂一般参拝者にお接待	一般参拝者 ボランティア役員 100名
中央自治会みかん狩り	11/28 西部みかん山	ハイキング及びみかん狩り	一般自治会員 200名
中央地区防災訓練	11/28 中央小学校	防災訓練	一般自治会員 消防団 200名
食育事業	12/5、12/9 中央小学校	5年生とダイシモチ麦粉入り だんご汁試食	40名
中央小学校児童との 交流事業	12/20 中央小学校	児童とのカローリング試合	5年生 会員 60名

令和4年度 地区社協事業報告〈東部地区〉

(令和4.4.1～令和5.3.31)

目標	支え合い、助け合うまち、東部地区	設立年月日	平成2年2月26日
----	------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/16 事業報告、事業計画等（書面表決により実施）	83名
監査	5/11	4名
役員会	5/11 総会について	20名
	7/15 特別会員の推進及び集金について他、研修	19名
	10/28 今後の予定、「ミニここ家」、市社協からの連絡	18名
	2/17 今後の予定、研修、民生委員とのグループ協議	50名
役員研修会	コロナ感染予防対策により、開催中止	—
サロン代表者会	3/10 助成金の支給、サロン活動についての座談会	17名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者、80歳以上の高齢者のうち希望者 民生委員 10回（R4.1.1～R4.12.31） 1,394人（R4.1.1～R4.12.31）
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員12人、見守り活動推進員55人
ふれあい・いきいきサロン	17グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数29回、延べ利用者数 185人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
ふれあい会食会	中止	—	—
ふれあい会	11/25 東部幼稚園	サンタさん訪問、プレゼントを贈る	全幼稚園児 65名
友愛訪問①	8/31	梨のお届け	75歳以上1人暮らし、寝たきりの方 212名
友愛訪問②	2/24、2/25	赤飯のお届け	// 206名
居場所づくり（ミニここ家）	12/9	ミニカフェ、ミュージックコーナー、ゲームコーナー、健康福祉相談コーナー	80名強
敬老行事	9/17	商品券、記念品お届け	1034名
公民館まつりへの協力	中止	—	—
ウォーキング行事への協力	5回実施 市内各所	ウォーキング	自由参加
東部っ子パトロール隊への協力	指定日見守り	書面決議、助成金、有志による付き添い見守り	民生委員、サロン代表者等
高齢者問題を考える会（役員会）	活動休止中	—	—

◆ 広報誌の発行

広報の名称	東部地区だより	編集委員	地区社協3役、公民館運営委員等11名
1回あたり印刷部数	2,000部	編集委員会 開催日	9月初旬、4月初旬（持ち回り）
1回あたりの諸経費	34,980円（印刷代） （他に写真、テスト印刷等）	発行回数	年2回
配布方法	自治会全戸配布、公民館、小学校・幼稚園	発行日	第13号 令和4年9月30日発行 第14号 令和5年3月31日

令和4年度 地区社協事業報告〈西部地区〉

(令和4.4.1～令和5.3.31)

目標	交流を深め、支え合えるまち西部	設立年月日	平成2年2月21日
----	-----------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者数
総会	4/15 各委員へ総会資料を配布 (書面表決により実施 議案の承認は5/25)	70名
監査	4/12 事業及び収支の状況	4名
役員会	4/15 令和3年度の事業及び収支 総会は書面表決にすること 令和4年度総会について	26名
	12/21 情報誌の発行、地区社協推進モデル事業	23名
執行役員会	6/7 今年度事業及び当面の課題 情報誌の発行について	9名
	7/14 当面の事業と課題について	6名
	9/22 役員研修、見守り活動推進全体会議	9名
	11/5 福祉座談会の進め方について	6名
	3/29 令和3年度の事業及び決算について 総会の進め方について	6名
特別会費の徴収	7/13 西部公民館及び戸別訪問	
西部地区役員研修	11/10 徳島県防災センター等見学	14名
見守り活動推進員全体会議	11/26 高齢者課課長の講演、意見交換	25名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 調理の担当 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の高齢者、要援護者 民間業者へ 民生委員 10回(R4.1.1～R4.12.31) 354人(R4.1.1～R4.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員7人、見守り活動推進員21人
ふれあい・いきいきサロン	7グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数	23回、延べ利用者数 140人

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	主な内容	対象者数
盛夏日応援事業 (独居老人安否確認事業)	8/17 菓子等の配布及び安否確認	47名
サロン代表者懇談会	3/23 令和4年度活動状況 来年度に向けての課題 講演会「元気に活動するために フレイルについて」 高齢者課保健師	10名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	西部地区だより「きずな」	編集委員	9名
1回あたり印刷部数	約800部	編集委員会開催日	1/15 /1/26、3/3
1回あたりの諸経費	67,000円	発行回数	年1回
配布方法	単位自治会を通じて各戸配布	発行日	第1号 令和5年3月31日

令和4年度 地区社協事業報告〈南部地区〉

(令和4.4.1～令和5.3.31)

目標	誰もがいきいきと暮らせ多彩でうるおいに満ち 共に創り共に助け合う	設立年月日	平成2年3月12日
----	-------------------------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/22 各委員へ総会資料を配布（書面表決により実施）	62名
監査	4/23	4名
第4次南部地域福祉活動計画 策定委員会	4/28 南部地域に見守り活動等福祉活動を策定するための協議を行う	8名
一人暮らし高齢者ふれあい 旅行打ち合わせ会	9/13、11/1、11/8	4名
合同研修会打ち合わせ会	11/16、2/1	4名
外出支援事業打合せ	3/9 外出支援事業日程打合せ	8名
ふれあいサロン打合せ	3/9 今後のふれあいサロンの運営について	6名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
在宅要介護者安否確認事業	対象者 訪問担当者 訪問回数 延べ対象者数	75歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯等 民生委員 10人 2,483回 (R4.1.1～R4.12.31) 1,918人 (R4.1.1～R4.12.31)
ふれあい・いきいきサロン	6グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 21回、延べ利用者数 109人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
一人くらい高齢者ふれあい旅行	12/5 四国健康村	75歳以上の一人暮らしの方を対象とした一日ふれあい旅行	会長 1名 副会長 2名 運営委員 1名 民生委員 8名 市社協 1名 招待者 38名
介護支援事業所へクリスマス慰問	12/15 南部公民館	介護支援が必要な方へ、クリスマス慰問を行い、お菓子等配布した	会長 1名 副会長 1名 運営委員 1名
南部幼稚園 三世代交流事業（縮小開催）	2/24 南部幼稚園	高齢者と園児の交流の機会であったが、コロナ禍のため、ひなあられを持参した。	会長 1名 副会長 1名 運営委員 1名
合同研修会	2/27 北淡震災記念館	自治会、環境推進委員会、地区社協で合同の研修会を実施。地区内の関係者の交流を図った。	
三世代ウォーキング	3/4 南部公民館	南部地区の三世代を対象としてウォーキングを行いスタンプラリーで楽しんだ	87名

令和4年度 地区社協事業報告〈与北地区〉

(令和 4. 4. 1～令和 5. 3. 31)

目標	『向こう三軒両隣』からつながる地域づくり	設立年月日	平成2年2月20日
----	----------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/24 事業報告・会計報告（書面表決により実施）	59名
監査	5/24 会計監査	4名
役員会	5/21 役員選出と総会議案について	11名
福祉協力員と民生委員合同打合せ会	4/12 令和4年度における福祉活動についての役割と分担の確認	28名
サロン代表者会義	3/19 サロン活動の現状・意見交換、活動助成金	12名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス（手作り弁当）	対象者 配食の担当 調理の担当 実施回数 延べ対象者数	独居高齢者等 福祉協力員、民生委員 福祉協力員、ボランティア部員 10回（R4. 1. 1～R4. 12. 31）*毎月最終金曜日 433人（R4. 1. 1～R4. 12. 31）
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員 6人、活動推進員 15人
ふれあい・いきいきサロン	9グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 16回、延べ利用者数 121人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
さつま芋栽培体験事業	5/12 借上農地	さつま芋苗植付作業	役員、民生委員、ボランティア、小学校児童、幼稚園児 25人
さつま芋栽培体験事業	9/21 借上農地	さつま芋収穫体験	役員、民生委員、ボランティア、小学校児童、幼稚園児 30人

令和4年度 地区社協事業報告〈竜川地区〉

(令和4.4.1～令和5.3.31)

目標	お互いのつながりを再構築し 誰もが安心して暮らせる 心豊かなまちづくり	設立年月日	平成元年12月15日
----	---	-------	------------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/21 事業報告、事業計画等（書面表決により実施）	99名
監査	4/16 監査	5名
役員会（理事会）	4/30 総会提出議題について	18名
執行役員会	8/31 独居者訪問、役員研修等について	5名
	10/16 広報誌の発行について、役員研修会について	18名
	12/17 地域福祉事業について	9名
	2/17 地域福祉事業（サロン、外出支援について） 事業執行状況、当面の課題	9名
福祉委員会 （見守り活動委員会）	9/8 ふれあい活動訪問	10名
	3/23 研修会・活動報告・情報交換	27名
サロン代表者会議	12/25 研修・外出支援・コロナ対策	17名
	3/4 研修会・外出支援計画・助成金・活動費	18名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者	75歳以上の独居高齢者
	配食の担当	民生委員8名
	実施回数	19回（R4.1.1～R4.12.31）
	延べ対象者数	709人（R4.1.1～R4.12.31）
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員 8人、見守り活動推進員 17人
ふれあい・いきいきサロン	13グループ	
高齢者等外出支援事業	15グループ 運行回数 43回、延べ利用者数 272人	
居場所づくり	サロン・わいわい亭（活動人数1581人）	毎週火曜日実施

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	主な内容	参加者
独居高齢者ふれあい訪問	9/8 独居高齢者訪問（梨配り、熱中症予防啓発） 対象者：77名	10名
ふれあい夏祭り	中止	
安全安心パトロール	毎週水・土 青色パトロールカーにて実施 コロナ対策により実施減	67名
役員研修	11/28 阿南市津乃峰地区防災公園視察研修	28名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	健やか福祉のたより たつかわ	編集委員	会長、副会長等5名
1回あたり印刷部数	1,500部	編集委員会開催日	5月 6月 2月 3月
1回あたりの諸経費	55,000円	発行回数	年2回
配布方法	自治会を通じ全戸配布	発行日	第26号 令和4年7月1日発行 第27号 令和5年3月20日発行

令和4年度 地区社協事業報告〈筆岡地区〉

(令和4.4.1～令和5.3.31)

目標	みんなで支え合う コミュニティのまち 筆岡	設立年月日	平成2年2月26日
----	-----------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/21 資料郵送にて理事による承認、役員等に周知 (書面表決により実施)	4名
監査	4/16	4名
執行役員会	5/14 総会資料協議、理事役員について	8名
	8/20 先進地視察、高齢者交流会の検討→中止	7名
	10/26 共同募金、見守りネットワーク、85歳以上歳末訪問、 視察研修について	9名
	11/11 85歳以上歳末訪問、高齢者交流会中止の代替案	8名
	11/22 高齢者交流会中止の代替案	10名
	1/18 高齢者交流会代替案検討、第4次地域福祉計画点検	10名
サロン代表者会	3/25 令和4年度活動実績、令和5年度活動計画	8名
	6/21 外出支援運行計画7、8、9月 園児児童との三世代交流について	13名
	9/21 外出支援運行計画10、11、12月、必要備品要望調査	13名
	11/1 園児児童との三世代交流について	18名
	12/14 外出支援運行計画1、2、3月	6名
見守り活動ネットワーク事業 (研修会、連絡会)	3/15 外出支援運行計画4、5、6月、活動費支給	18名
	6/4 研修：見守り活動の進め方 (市社協) 連絡会：チームごとのグループ討議	25名
	2/4 研修：市の高齢者の支援施策について (高齢者課長) 連絡会：：チームごとのグループ討議	26名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者、80歳以上の高齢者のうち希望者 民生委員 11回 (R4.1.1～R4.12.31) 309人 (R4.1.1～R4.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員 6人、見守り活動推進員 23人
ふれあい・いきいきサロン	13グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数	43回、延べ利用者数 298人

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
園児、児童との三世代交流事業	12/17・筆岡小学校	幼・小学校合同餅つき大会参加	執行役員、民生委員等9名
研修視察	3/6・高松	かがわ総合リハビリテーションセンター、栗林公園、讃岐おもちゃ美術館	27名
高齢者交流会	10月予定	コロナ禍により中止	
独居高齢者一日旅行	1月予定	コロナ禍により中止	

◆ 広報誌の発行

広報の名称	福祉ふでおか	編集委員	執行役員
1回あたり印刷部数	1,000部	編集委員会開催日	4/21 5/14 11/22 1/18 3/25
1回あたりの諸経費	50,000円	発行回数	年2回
配布方法	自治会に配布依頼	発行日	第41号 令和4年5月1日発行 第42号 令和4年12月1日発行

令和4年度 地区社協事業報告〈吉原地区〉

(令和4.4.1～令和5.3.31)

目標	みんなで支え合い笑顔あふれる 吉原地区	設立年月日	平成元年6月28日
----	---------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/21 コロナのため書面表決により実施 書面議決結果報告書の配布 結果→98/98 (100%)	101名
監査	4/5	5名
役員会	4/8 総会資料検討、書面議決書配布、理事会開催	7名
	4/27 総会開催について、総会資料審査・追加・訂正等	17名
	7/20 買い物バス運行、地区だより発行、サロン活動助成金等について	18名
	10/27 退任者への感謝状等贈呈、歳末ふれあい訪問等	14名
総会準備・資料印刷・製本	5/6 112部	8名
総会準備・資料・記念品・書面議決書配布及び回収	5/10 総会資料等配布、市社協会費納入他依頼	18名
役員・福祉委員会	2/23 令和5年度買い物バス運行 合同研修会等について	39名
買い物バス運行計画策定	3/12 運行計画策定(コース別添乗員・利用者名簿作成)	3名
ふれあいサロン代表者会	8/7 サロン活動報告、外出支援バス利用等について	22名
	3/17 活動状況報告・意見交換 R5 継続申請書提出等について	23名
合同研修会	3/23 記念品等の配布(研修会中止) 該当者 62名	12名
みまもり活動連絡会	4/13 活動の現状と課題(3か月)、今後の活動について	18名
	7/7 活動の現状と課題(3か月)、今後の活動について	14名
	10/5 活動の現状と課題(3か月)、今後の活動について	17名
	1/18 活動の現状と課題(3か月)、今後の活動について	17名
みまもり活動連絡会研修	11/25 高松市社協 香西・十河地区社協の活動状況、意見交換	12名
歳末ふれあい訪問準備	12/17 記念品の仕分け	13名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者 民生委員 17回(R4.1.1～R4.12.31) 608人(R4.1.1～R4.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員 7人、見守り活動推進員 10人
ふれあい・いきいきサロン	21グループ	
高齢者等外出支援事業	買い物支援バス：運行回数0回 (コロナ禍で運行検討するも、実施せず) サロン外出支援バス：運行回数30回、延べ利用人数202人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
食改善ふれあいサロン交流	11/16 公民館	お弁当渡し	食改善7名 参加者8名
食改善ふれあいサロン交流	11/16 曼茶羅寺東自治会場	お弁当渡し 生活習慣病予防の話	食改善3名 参加者10名
歳末ふれあい訪問	12/18 公民館	記念品等の配布 地区内80歳以上の289名	21名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	吉原地区だより	編集委員	北岡一男、村井学、秋山和代、森美雪、尾崎徹
1回あたりの印刷部数	1,100部	編集委員会開催日	9/11, 9/16, 9/30, 1/18, 2/14, 2/19, 2/28
1回あたりの諸経費	50,000円(年間)	発行回数	年2回
配布方法	運営委員(自治会長)が配布	発行日	第18号 令和4年9月30日発行 第19号 令和5年2月28日発行

別表 4

善通寺市地域支え合いセンターここ家																	
令和4年度利用状況																	
月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均	1回平均
一階開館日数(日)			20	19	22	19	22	20	20	20	20	19	19	22	242	20	
生 き が い ひ ろ ば	生 き が い ひ	実施回数(回)	13	11	14	12	12	14	13	12	11	10	10	13	145	12	
		利用者数(人)	33	28	40	37	45	50	48	35	43	47	32	62	500	42	3.4人/回
		その他利用者数(人)	107	104	117	123	112	108	117	110	108	89	91	80	1,266	106	5.2人/日
		ボランティア人数(人)	9	8	10	8	8	9	10	9	9	7	6	9	102	9	
	店 日 替 な な わ い の り	開店日数(日)	16	14	18	15	17	20	17	16	15	15	15	19	197	16	
		利用者数(人)	428	406	505	467	449	493	524	521	500	469	543	635	5,940	495	30.1人/日
		シェフ及びアシスタント人数(人)	37	31	39	37	35	37	35	35	34	34	36	38	428	36	
	あ こ こ 家	実施日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		協力者(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	い ひ ろ ば	実施日数(日)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	11	1	
		利用者数(人)	2	0	1	1	1	2	1	1	0	0	1	1	11	1	
		スタッフ数(人)	2	3	2	4	2	3	2	2	0	3	2	2	27	2	
	タ ン セ ン	会議回数(回)	4	7	9	10	7	8	10	4	10	6	10	9	94	8	
		利用者数(人)	63	54	77	85	70	64	99	45	91	84	90	107	929	77	9.8人/回
	め し こ	利用者数(人)	0	0	19	0	0	28	0	22	0	21	0	32	122	24	
		スタッフ数(人)	0	0	9	0	0	9	0	8	0	9	0	9	44	9	
女 め こ 子 し こ	利用者数(人)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1		
	スタッフ数(人)	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	1		
寄 こ 席 こ	利用者数(人)	0	0	0	0	16	0	0	15	0	0	20	0	51	17		
	スタッフ数(人)	0	0	0	0	3	0	0	4	0	0	6	0	13	4		
計(1)		人数(人)	681	634	819	762	741	809	836	807	785	763	827	975	9,439	787	39.0人/日
介 護 予 防 ・ 日 常 生 活 支 援 協 働 合 作 事 業	脳 ト レ	実施回数(回)	7	7	9	9	9	8	8	8	7	6	8	9	95	8	
		利用者数(人)	59	74	92	96	96	86	95	112	92	67	102	113	1,084	90	
		サポーター及び運転手人数(人)	33	29	45	45	43	47	45	50	41	34	46	48	506	42	
	通 所 サ ー ビ ス	通所サービス実施日数(日)	21	19	22	20	22	20	20	20	19	19	19	22	243	20	
		利用者数(人)	232	216	248	241	237	247	280	272	270	247	243	254	2,987	249	
		ボランティア人数(人)	14	13	14	8	14	14	15	11	14	11	12	12	152	13	
	計(2)		人数(人)	338	332	399	390	390	422	463	485	417	359	403	427	4,825	402
合計(1)+(2)		人数(人)	1,019	966	1,218	1,152	1,131	1,231	1,299	1,292	1,202	1,122	1,216	1,402	14,250	1,188	
令和3年度利用状況		人数(人)	1,171	297	758	920	507	265	1,225	1,146	1,075	714	199	446	8,723	727	